

人は一人だとただ生きていることはできるかもしれないですが、決して豊かに生きているとは言えないです。「豊かに生きる」「幸せに生きる」ためには、傍にいて寄り添ってくれる”誰か”の存在が必要です。

支えきれなかった悔しさ

三羽さんと初めて出会ったのは、今から16年前。当時、私は川口太陽の家に入職してコスモス商会（埼玉協同病院での古本・古着販売の班）の担当で、三羽さんも班の仲間の一員として入っていました。ずっと欠勤状態が続いていました。2年ほど太陽の家には通えていなかったのを、先輩職員と一緒に自宅まで迎えに行き、家の前で話をするなどしてきつかけを作って太陽の家に再び通えるようになり販売活動も頑張っていました。当時の三羽さんは、「将来どうするのか」「太陽に言い続けられるのかなあ」「オレンヂホームで暮らすのかなあ」という将来の悩みを漠然と抱いては、不安定になって太陽の家を休むことも多かったようです。

ま 通 信

生きる

陽の家 一

おひさま通信

ゆたかに生きる

— 川口太陽の家 —

うしても気まずさや仲間同士の関係の中でも遠慮がみられるものです。けれど、仲間たちは三羽さんを以前と変わりなく迎えてくれました。「おかえり！三羽さん」「また一緒にステンド作ろうね」新しい生活に不安いっぱい、三羽さんに対して、少しの間離れていたけれど、お互いに思い合える仲間の存在がありました。職員はそんな彼の傍に寄り添い、悩みを聞き、どうしたら解決できるのか一緒に考えて一つ一つ不安を取り除いていく。仕事場面では、細かい作業の多いステンドグラス製品作りで、震えがある日や気持ちが悪くて、震えがある日や気持ちが悪くている日は無理矢理に仕事を行うようなことはしないで、本人の状態を見てできることを行う。仕事に参加できない事でさらに悩んでしまう性格もあるのです。どうしてもできない日は職員と何気ない会話をしながらガラスの洗浄など簡単な仕事をする。とで気分を落ち着かせたりしました。太陽の家・オレンヂホームで生活するようになり、1ヶ月もしないうちにほぼ以前の状態、いや別人に生まれ変わった三羽さん。精神的に不安定な様子はあるものの、オレンヂホームに入居し生活が安定し、毎日太

しまうことになりましたが、大地で働きながらも「三羽さん、ちゃんと太陽に來てるのかな」と氣になっていた仲間の一人でした。

三羽さんは右手の震えの悩みを抱えており、様々な不安や悩み、疲れからかさらに震えが酷くなってしまう、精神的にも悪循環に陥ってしまいました。電車の中で右手が震えたらどうしよう…と不安になることも影響して出勤ができなくなり、太陽の家を休みがちになっていました。そんな三羽さんが長期欠勤状態だった2012年3月に突然家族の意向で太陽の家を辞めることになりました。私は、前年に大地から川口太陽の家に復帰していて、偶然にもあおぞら班で三羽さんとまた同じ班になったのに、何もできないまま三羽さんが太陽を辞めてしまうことに職員としてやりきれなさや悔しさを感じていました。

孤独の中で

それから2年後、越谷市役所より連絡があり、母親が入院しており、三羽さんについてどうにかしてほしいとの相談がありました。自宅訪問をした際、自分の知っている三羽さんの姿はそこにはありませんでした。約4年間引きこもり状態で、歩行困難で声も出ない、震えもかなり強く、目もうつろ、精神的にもかなり不安定な様子で変わり果てた姿がそこに

陽の家に通って仲間たちと一緒に仕事し、普通の生活を送ることができるようになってきました。たった一人孤独だった三羽さんがみんないることで幸せを実感できるようになり、人生が大きく変わりました。

すごくうれしそうな笑顔

寄り添う支援とは、常に一緒にいることではなく、その仲間のペースや障害の状態で配慮して、必要な時に一緒に悩んで、仲間の願いを叶えられるように前に進む道を考えることが大事なのだと思います。そのためには毎日の暮らしの中でのちょっとした気づかい、当たり前の自分らしい暮らしの積み重ねが大切で、そうした関わりが寄り添う支援ではないかと思います。現在の三羽さんは生活が安定し、毎日太陽の家に通って仕事をする。何か悩みがあれば職員に相談しにきます。ケンカや愚痴の言える仲間がいる。やるべきことがあって、いつも傍には冗談を言いながら、くだらない話で一緒に笑い



はあり、言葉を失うほどでした。壁には「死にたい」と書かれた落書きの跡があり、ハサミで刺して空けた穴が無数に点在していました。入浴・歯磨きはいつからしていないだろう、まるで希望や展望を失った人のような状態で、数年間、相談できる人を失った三羽さんの姿は、まさに孤独“そのもの”でした。人は思えばえる人を失っただけでたった数年でこんなにも変わり果ててしまうものなのか。もう2年前のような後悔はしたくない、今、三羽さんにとって必要なのは、太陽の家だと思い、すぐに松本所長と相談し、同時に生活の拠点を移すため、当時空きがあったオレンヂホームに入居することになりました。

復歸して新たな生活が始まった

太陽の家に復帰し、オレンヂホームでの新たな生活が始まった三羽さん。職員側としても一から三羽さんとの関係づくりをしていきました。

合えるみんながいる。太陽の家にいる三羽さんは今、すごく嬉しそうな笑顔を見せてくれています。オレンデホームに帰ったら、「おかえり三羽さん」「今日はどうだった？」笑顔で迎えてくれるホームスタッフがいる。些細なことかもしれないがみんなといることで幸せだと思える豊かな瞬間がある。当たり前の暮らしに寄り添ってくれる職員や仲間がそこにはいます。振り返ってもだれもいなくて、孤独だった三羽さんの姿はもうありません。

希望をつないでゆたかに生きる

三羽さんに聞いてみました。「これからの目標は何かあるの?」すると三羽さんは、少し考えてから「一人で外出してみたいな」「今の三羽さんならできるんじゃないの。不安はあるの?」「久々だから不安があるし、ホームからバス停まで坂道あるし大丈夫かな:」「黒田さん、練習で一緒に行ってくれないかな?」「いいよ。じゃあ、日程考えようか」

あの時、自宅で見た三羽さんの姿からは一人での外出なんてできる日が来るとは想像もできなかった。人生苦しい時は登り坂。三羽さんが一人で外出できるようになったら、また新たな三羽さんの笑顔が見れるのかな。がんばれ!三羽さん。

川口太陽の家施設長 黒田 徹

響
ぎ

地域活動支援センターたいよう

*利用者の皆さんから要望の多かった「映画会」を開催しました。木曜日の午後の時間に館内の部屋を借りて映画を観ました。映画は皆さんから意見を頂き多数決で「踊る大捜査線」になりました。上映中は皆大きいスクリーンに食い入るように見入っていました。今後もある定期的な開催をしていく予定です。

白岡太陽の家にじ

*今年も暑い夏を感じる毎日ですが、にじの仲間たちは今年度も体を動かすことを日課に取り入れて仕事と活動を行っています。暑さに体を慣らしながら、脂肪燃焼をめざして熱中症対策にも十分力を入れて取り組みを進めています。

大地

*5月30日に交流スペースで第10回運動会が行われました。紅白に分かれ対戦。種目は借り物競走、大声大会、ダルマ回し、的当てです。優勝した白組代表の安藤さんが賞状を受け取り「やったー!!」と両手を広げて喜んでいる姿がとても印象的でした。たくさんの応援、笑いありの、とても盛り上がった運動会でした。

アトリ工輪

*アトリエ輪になってから、とても見学者の方が増えました。緊張しながらも自分の作品について説明したり、さりげなく手をとめて作品をアピールする仲間、自分の名刺を作成した仲間は自己紹介を兼ねて質問に答えていたり、日頃の頑張りを積極的に伝えていきます。

シャイン

*長期休みの時は、家族も参加できるお楽しみ企画を考えています。普段からよく行く広場まで散歩して、みんなでボールやシャボン玉で遊んだ後、おいしいお弁当を食べ楽しくすごしました。

太陽の里

*今年度の一泊旅行は、久しぶりに仕事グループで行う事になりました。仲間全体会で皆からあがった意見が形になりました。それぞれ、グループ色のある旅行になると思います。仲間同様、職員もどんな旅行になるか今から楽しみです。

